

① 楽典基礎講座 講師 黒田 彩先生

7月12日、13日 滝野川東区民センター

2日間にわたり、楽典の基礎を学びました。この講座は毎年グレード試験のために行われていますが、受験をしなくても基礎を学びたい方や、すでに準師範になられた方も復習のために受講されます。講習内容は「音楽通論」の本を中心に進みます。

先生はわかりやすくするために、音階の内容を家族関係に例えて話してくださったり(主音を父、下属音を母、属音を長男、導音を長女など)、復習用のプリント問題を作成して丁寧に進めてくださいました。また受講者の皆さんもわからない所を積極的に質問され、熱気ある2日間の講習会となりました。

② 指導者研修会

9月26日 板橋グリーンホール

リモート参加もありで行いました。

☆上先生の音見つけ

「夏の思い出」の楽譜を中心に、今回は転調についてのお話です。つなぎの部分を作ることで、同じ曲を転調して繋げたり、違う曲をメドレーにすることもできます。

参加者から“移動ド”(F調の数字譜)では分かりにくい、との声があり固定ド(ハ長調)について、転調の話を進めました。繋ぎ部分を考える時は、転調後の調の属和音を意識して利用する、転調前の調の主和音との共通する音を利用して繋ぎを作ると良い、と教えて頂きました。

☆グレード試験の課題曲について 田邊会長

始めに参加者から、指導する上での悩みを聞き、それに対してアドバイスがありました。

次に、課題曲に入る前に「スイスイフキフキ、ズルしない」という、会長が伝えている言葉の説明がありました。これは、吸い音が続く時、吹き音が続く時でも、音の立ち上がりを同じにするというお話です。

そして、夕やけこやけ、城ヶ島の雨による幻想曲について、演奏上の注意点などがありました。

☆「音楽は感性ではなく、フィジカルシンキングです。」

お茶の水女子大学 教授 永原 恵三先生

音楽家であり声楽家でもある永原先生は、関西のご出身で、ユーモア交えての講話でした。演奏者は、作曲者の意図を研究し演奏します。音楽とは思考活動の結果であり、考えていない人の演奏はペランペランです。ハーモニカは息によって音楽が作られています。私達、一人一人が音楽を持っていて、その人が音楽とどういう風に向き合ってきたか、生きてきた

流れの中に音楽があります、と話されました。

「音楽はフィジカルシンキング」という意味は、横隔膜を動かし、筋肉を動かすことの指令は頭である。そのために頭で考えて筋肉を動かす、ということだそうです。その為のコツを面白く紹介してくださいました。

③ 音見つけスクール Vol.9 上 明子先生

10月11日 西葛西図書館 会議室

今回は「花は咲く」をテーマに、対旋律と、転調先へのつなぎの部分について学びました。今年度1回目と2回目は通信講座でしたが、今回は会場参加とリモート参加も併用で行いました。通信講座やリモート参加というやり方は、遠方の皆さんから「地方にいてもプロの作曲家の先生にご指導いただける」と大変喜ばれています。

研修では、会場の参加者が2人組になって自分の編曲披露をし合い、先生のコメントを頂きました。先生のアドバイスで音が1音でも変わると、自然な流れになったり、素敵な流れになるので会場では一つ一つに“わぁ！”と感動の声が上がります。リモート参加者の編曲には、上雅子さんがピアノで弾いて聞かせてくれました。

先生は良い点も指摘してくださるので、他の人の編曲を聞きながら、学んでいきます。リモート参加の方から「自分の編曲をプロのピアニストに弾いてもらえて嬉しい！録音しました！感動しました！」と喜びの声が届きました。

次回はトトロの“さんぽ”です。初めての参加でも、聞くだけの参加でも大歓迎です。音を見つけていく楽しい時間を一緒に過ごしていただきたいな、と思います。

④ 福島ミニ合宿 10月25日、26日 飯坂温泉

—古関裕而、荒城の月を研究—

NHK朝ドラ「エール」のモデルになった古関裕而の故郷である福島県を訪ねる合宿でした。

1日目

☆古関裕而の合奏曲 木村先生

古関裕而の曲やご家族のお話に、朝ドラの場面を思い出しながら聞くことができました。事前に木村先生編曲の「三日月娘」「今日はよい日」の楽譜が届きました。どちらも知らない曲でしたが練習していききましたので、自然とメロディを口ずさみながら福島に向かいました。特に「今日はよい日」はコロナ禍の気分を吹き飛ばすような、晴れやかな気分になしてくれました。皆でこの2曲をアンサンブルで演奏しました。

☆「古関裕而物語」 作家の斉藤秀隆氏

当時の曲を聴きながら、古関メロディを歌った女性歌手や奥様の金子さんのエピソード

ドを聞くことができました。金子さんはヤキモチやきだったそうです。

印象に残ったお話では、歌手の二葉あきこは、広島に原爆が投下された瞬間、電車に乗っていて、ちょうどトンネルの中だったので一命を取り留めたそうです。

古関裕而が自分の作曲した中で特に気に入っている曲は「白鳥（しらとり）の歌」「長崎の鐘」「オリンピックマーチ」だそうです。

☆「荒城の月」と滝廉太郎の生涯 大田原 研修局長

「荒城の月」の楽譜で、鮫島有美子が歌った、「荒城の月」が紹介されました。“はるこうろうのはなのえん”の「え」のレの音が原曲通りにレ#になっており、1音の違いで雰囲気が変わるのを実感しました。

荒城の月の城とは、作詞家の土井晩翠は会津鶴ヶ城のことを書いたそうです。そして、その詞を見て滝廉太郎は岡城をイメージして作曲されたといわれているが、その証拠はないそうです。滝廉太郎の短い生涯曲についてのお話も聞くことができました。

☆夜の懇親会では佐賀、仙台、福島、首都圏の皆さんによる美しいハーモニーを聞くことが出来ました。

2日目

☆朝8時からの開始でした。

ぶちこまんたれう“、の大庭麗奈さんによる「じろりんたんのうた」と黒田彩さんによる「ニコライの鐘」について学びました。

「じろりんたんのうた」では、とにかく“楽しく、可愛らしく、笑顔で”を心掛けて練習しました。音階、3穴、半音、分散和音の練習もしましたが、それよりも演奏中の表情を、講師のお手本のように笑顔一杯でやり、とても楽しい雰囲気の講習でした。

「ニコライの鐘」は曲の雰囲気を出すための吹き方や、リズム練習を入れながら練習しました。全員で雰囲気の違う2曲を演奏し、この日も古関メロディを味わうことができました。

最後のミニコンサートでは講師演奏や、福島の皆さんによる「オリンピックマーチ」

などを聞かせていただいた後、参加者全員で前日に習ったばかりの「三日月娘」と

「今日はよい日」を合奏しました。思いのほか、立派な演奏になりました！

<https://youtu.be/kmOzY-wxHSI>

<https://youtu.be/ApDqeWEQbIE>

帰りに古関裕而記念館に寄りました。直筆の楽譜や、「長崎の鐘」に関係した永井博士からの手紙、レコードジャケットの直筆絵など興味深く見ることができました。

温泉に入り、紅葉、リンゴ畑、すすきが揺れる中をバスで走り、気分転換とリセットが出来た2日間となりました。福島の皆様、お世話になりました。